

## 2026 年 JTA テニスルールブック 主な改訂点の解説

JTA 審判委員会作成

※ページ数は 2025 年ルールブックのものを使用

### P.45

#### Q7) 電子機器の使用

プレーヤーは、試合中いかなる電子機器も使用することができない。スマートウォッチは電源が切られた状態でも試合中の着用は認められない。

ITF の大会で着用が認められている、データを確認する画面のついていない Whoop デバイスは着用することができる。

電動ファン付きジャケット・ベストの着用および電動ファンについては、各エンドチェンジ・セットブレイクの時間内に限り使用することができる。

【解説】ITF に合わせてスクリーンの付いていない Whoop デバイスの使用を許可。

### p.126

#### 27. オフコートコーチング

【解説】2026 年度からトライアルではなく本ルールとして採用。

### p.181

7) ヒートルール ON の時、1 セットオールになった場合、両選手に確認後「ヒートルール基準を超えたため、10 分間の休憩を取ります」

8)マッチタイブレイク方式の試合で 1 セットオールになった場合  
「セットブレイクの後、10 ポイントのマッチタイブレイクを行います。」

【解説】ITF に合わせて、マッチタイブレイク前のアナウンス例を記載。

### P.195

12) 各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。

a. 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。

b. 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。

c. 「フットフォールト」はレフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれか。ただしコートの外からコールする場合は、選手に周知していることを条件とする。

【解説】コート外からフットフォールトを取る際の手順をより明確に記載。

## P.196

9) 必要があれば、コート内外からフットフォールのコールやプレーヤー・チームの判定をオーバールールできる。しかしプレーヤー・チームからのアピールの後にオーバールールすることはできない。

【解説】フットフォールについての記載を追加。

## p.197

c. レフェリー（アシスタントレフェリー）、ロービングアンパイアのいずれかがコート外にいて目に余るミスジャッジを目撃した場合は、コートへ入り、返球が正しく相手コートに入った場合は故意ではない妨害（1回目）としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。

【解説】自身が訂正した場合と同様の対処になるので、その点を明記。

## p.198

### 3. ソロチェアアンパイア（SCU）とセルフジャッジ

国内大会のみで採用される SCU 方式 は、ラインアンパイアがつかず、プレーヤーがラインの判定をセルフジャッジを行い、SCU がライン以外の判定を行う。SCU はそのプレーヤーのライン判定が明らかに間違っていると判断した場合、直ちにオーバールールし、次の通り処理する。ただし、プレーヤーがアピールをした後に、オーバールールすることはできない。

- 1) プレーヤーの「アウト」「フォールト」のコールを SCU が「グッド」とオーバールールした場合、そのプレーヤー・チームは失点となる。
- 2) 選手自身でコールを訂正した場合は、セルフジャッジの方法 15)に従う。
- 3) ネットに触れたあとネットを越えてバウンドしたサービスを、レシーバーが「フォールト」とコールし、SCU が「グッド」と オーバールールした場合は（サービスの）レットとなる。

【解説】SCU とセルフジャッジの混同を防ぐため文言を変更。また、SCU が付いた際に自身でコールを訂正した場合は、ラインジャッジに関しては選手自身でコールするセルフジャッジなので、1 回目は故意でない妨害として正しく返球した場合は 1 回目はリプレイ、2 回目以降は失点。